

### 定住し持続可能な農業を目指す

加美町の協力隊

坂上昌哉さん

【宮城】加美町地域おこし協力隊の坂上昌哉さん(42)＝写真＝は、(獨)月崎さくらファームで指導を受けながら、農業で町を盛り上げる活動に携わり3年目を迎える。

現在は、水稲、花卉、野



菜栽培などに取り組み、特にトマト(加熟用品種ポルゲーゼ)は、種子を自家採種するなど特色を出したこだわりの栽培もしている。

坂上さんは青森県出身で、大学卒業後、仙台市内で一般企業に勤務したが、東日本大震災で被災したことをきっかけに、農業に携わって生活をしていきたいと考えるようになった。その思いを実現させるため模索していた時、地域おこし協力隊の制度を知り、加美町への移住を決めた。坂上さんは「地域の方との出会いによって、昔ながらの知恵を学んだり、農機具のさ

さまざまな技術指導を受けたり、恵まれた環境の中で農業ができることがとても幸せ。来年3月で地域おこし協力隊としての任期は終了するが、このまま加美町に

定住して水稲を中心とした持続可能な農業を目指していきたい」と意気込みを語った。(加美町農業委員会・今野典子情報員)

### 地元農産加工品ブランドに認定

富良野市が事業

【北海道】札幌市から北東へ約115キロ、北海道のほぼ中心部に位置する富良野市。道内有数の観光地である同市は2017年から、農産加工品をブランドとして認定する「メイドインフ

地が富良野市を含む近郊市町村であることや、富良野市内で製造された商品であることなどの条件がある。認定期間は3年。これまで4回募集が行われ、11社54商品が認定されている。

ラン認定事業」に取り組んでいる。豊富な農産物と農産加工品を多くの人に味わってもらおうことが目的だ。認定には、原材料の生産

富良野市山部地区でブルーベリーとハスカップを栽培する星野果樹園(星野修司代表)では、手づくりで製造する3種類のジャムが